

2026年1月度 衛生講話

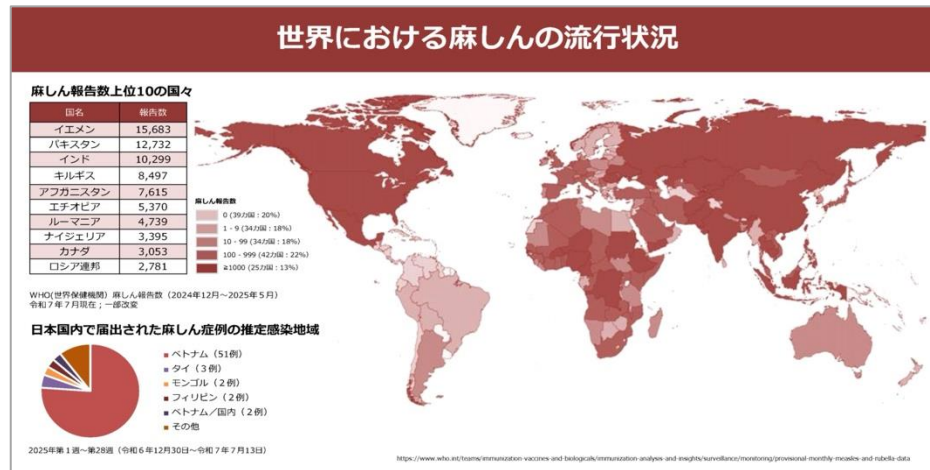
麻疹って何？ はしか対策をしましょう！

産業医 西川菜摘

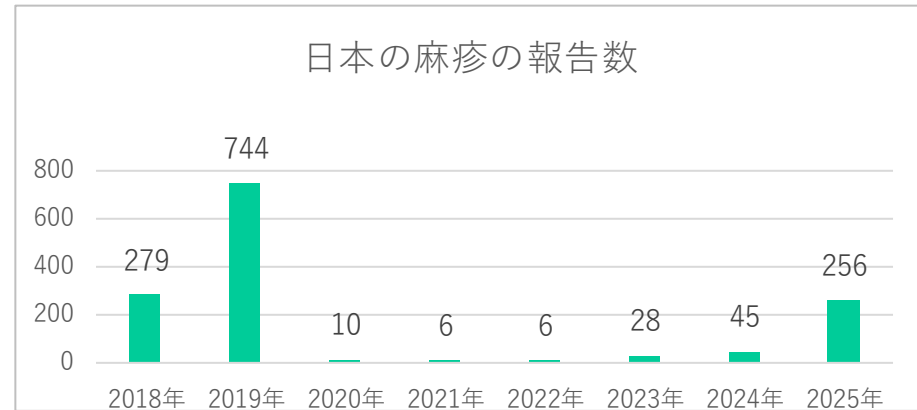


麻疹（ましん）とは？

- 麻疹ウイルスにより起こる「はしか」のこと
- 日本では2015年に排除状態となった
- しかし、年に数人～数百人の感染者あり
(国外で流行している地域があるため、海外渡航時の感染、海外からの旅行者の持ち込みで、国内でも感染が散発している)



図引用：厚労省 麻疹



国立健康危機管理研究機構 感染症発生動向調査の公表値より作成

- **空気感染し、感染力が非常に強い**
- 感染力は強いが、麻疹の免疫があれば罹患しない

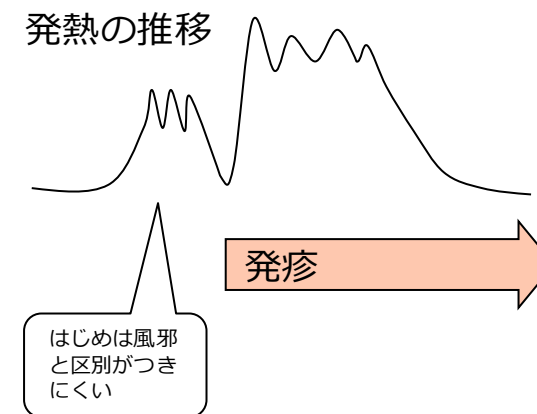
<原因>

- 麻疹ウイルスの感染



<症状>

- **症状は重い**（インフルエンザ、風疹 等と比較して）
- **発熱**（高熱、二峰性：2-3日発熱して一旦熱が下がり再度高熱）
- **発疹**（2回目の発熱時に出る。1回目の発熱時に出ない）
- 咳、鼻水、目の充血
- 脳炎、肺炎 など起こすことがある
- **死亡**（先進国でも0.1%）、**後遺症**



<どのように感染するか>

- 感染力： **とても強い**（最強レベル）
- 感染経路： **空気感染**（同じ部屋にいるだけでうつる可能性）、
飛沫感染、接触感染
- 潜伏期間（感染から発症までの期間）： 10～12日
- 感染力のある期間
 - **症状出現の1日前～解熱後3日くらい**
- 免疫がなければ、感染したらほぼ全員が発症
- **免疫があれば ほぼ罹らない**

空気感染

- 病原体を含んだ微粒子が空気中にフワフワ飛んでいて、それを吸い込むことで感染
- 感染者が同じ部屋にいと感染の可能性
- 空気感染する病原体は飛沫感染もする

例※：はしか、結核、みずぼうそう

同じ部屋で 離れた場所



飛沫感染

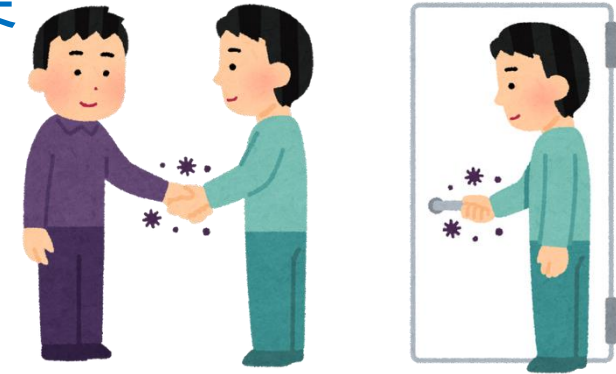
1～2m 以内



- 発声や咳・クシャミで飛んだ粒が、粘膜に触れる、吸い込まれて感染
- 感染する範囲は1～2m以内

例※：インフルエンザ、風邪、新型コロナ

接触感染



- 病原体のついているもの（皮膚、粘膜、物など）に直接触れることで感染
- 手で病原体を触れたあとに、手を口などに触れることでも感染

例※：疥癬、とびひ、はやり目

※ 多くの感染症は複数の感染経路を持ちますが、ここでは主に問題となる感染経路を示しています

<治療>

- 対症療法（症状に対する治療） 特効薬（抗ウイルス薬）はない
- 免疫グロブリン（血液製剤）を投与することもある
- 麻疹の疑いで受診時の注意
 - 必ず事前に医療機関に連絡（病院で周囲にうつさないため）
 - マスク着用
 - 公共交通機関の利用は避ける

<免疫のない人が感染者と接触した場合>

- 発症予防のため、72時間以内の予防接種や、5～6日以内の免疫グロブリン（血液製剤）を投与することあり

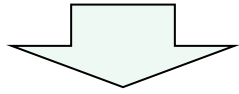
<対策>（後述）

- ① 免疫があれば大丈夫（予防接種 等）
- ② 感染者は人との接触を可能な限り避ける（出勤停止）

対策①：麻疹への免疫があれば大丈夫

- 予防接種が最も有効な予防法

- 予防接種 1 回で約95%、2回で約99%が免疫獲得
- 生涯で2回の予防接種で終了（インフルエンザ等のように毎年受ける必要はない）



- 予防接種歴を確認しましょう

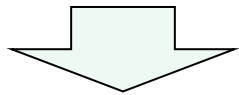
- 予防接種歴は、母子手帳などで確認
- 現在の日本での定期接種は、1歳、小学校入学前 の2回
 - 世代によって予防接種の回数が異なる
 - 2000年4月1日以前生まれの場合は2回接種していない可能性が高い



- 麻疹に感染した記憶は信頼できない

- 診断が確実でない可能性ある（麻疹以外の病気（風疹や中毒疹）の可能性もある）
- 麻疹の血液検査で診断されていれば信頼性は増

- わからなければ、血液検査(麻疹の抗体)で確認



免疫がない または わからなければ予防接種を推奨

生年月日と予防接種

年長者ほど予防接種率が低い

- 世代によって、予防接種の回数が異なる（政策の推移）
- 生年月日が2000年4月1日以前は2回接種していない可能性が高い

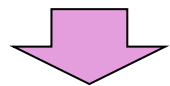
<生年月日と予防接種の回数>

生年月日	1972年9月30日 以前	1972年10月1日 ～ 1990年4月1日	1990年4月2日 ～ 2000年4月1日	2000年4月2日 以後
予防接種 回数	接種なし	1回接種のみ	1回接種 または 2回接種 (特例措置時の中高生時に 追加接種を受けた場合)	2回接種 (1歳、小学校入学前)

対策②：感染者は人との接触を可能な限り避ける

- ・感染者は人との接触を可能な限り避ける

麻疹は感染力が極めて強く、空気感染するため



出社停止

- ・ 感染力が低下するまで出勤停止が望ましい
- ・ 目安：解熱後3日経過するまで
 - ・ 学校保健安全法で「学校に登校禁止」は法があるが、出社を禁止する法はない。上記の目安は学校保健安全法の基準を参考
(感染者が電車で出勤していたらニュースになる可能性もある)

公共交通機関は使わない

- ・ マスク着用（効果は高くない）
 - ・ 麻疹患者のマスク着用は効果はあるが限定的
 - ・ 周囲が通常のマスクを着用しても、麻疹への効果はほとんどない



職場での対策

- 麻疹について 従業員へ啓蒙
- 感染者の出勤停止（他者への感染の可能性がなくなるまで）
 - 例：解熱後3日経過するまで。医師に確認するまで
 - 法令での出社禁止ではないので、就業規則や内規を定めることも検討
- 予防接種・抗体検査の推奨
 - 特にリスクの高い従業員や世代など
 - リスクの高い業務：医療機関、海外出張・赴任、宿泊業、接客業、空港など（不特定多数との接点が多い、国外（流行地）との接点がある、感染者と接する可能性がある業務）
 - リスクの高い世代：予防接種が0回または1回だった世代
 - 一度免疫をつければその後は対応は必要ない。予防接種は生涯2回で終了（インフルエンザ等のように毎年予防接種の必要はない）
 - 健康経営
 - 健康経営銘柄・健康経営優良法人（経済産業省）の評価項目に「健康診断時の麻疹・風しんなどの感染症抗体検査の実施」、「予防接種の費用補助」の項目あり
 - 費用補助の検討（義務ではない）

麻疹対策のポイント

麻疹は感染力は強いが、免疫があれば大丈夫
予防接種が最も有効な予防法（生涯2回で終了）

- 予防接種歴2回か感染歴があるか確認
- わからなければ 血液検査（麻疹の抗体）で確認
→ 抗体がなければ予防接種

感染時は出社停止など人と接触を避ける（解熱後3日経過するまで）